

## 授業改善プラン 4年

	児童の実態と課題	取り組みの重点	授業改善の成果と課題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを表現することが苦手な児童が多い。</li>   <li>・新出漢字を覚えようと努力する児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちを読み取らせる時は、場面ごとに話を整理する。また、ペア、グループでの交流学习を取り入れ、友達の考えを参考にできるようにする。</li> <li>・ワークシートを活用し、ふき出しに考えを書くようにする。</li> <li>・ノートやワークシートに計画的に練習させる。</li> <li>・国語・漢字辞典を活用し、主体的に言葉や漢字を調べられるようにする。</li> <li>・書く学習活動を意識的に増やす。良い文例は、全体に紹介し、パターンを理解させ、くり返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識的にペア・グループ学習を取り入れることで、交流学习スムーズに行えるようになった。</li> <li>・ワークシートを活用し、友達の意見を書き足しことで、振り返った時に、考えを広げることができた。</li> <li>・自主学習においても積極的に漢字学習をする児童が多い。丁寧さや正確さを備えられるように、引き続き指導していく必要がある。</li> <li>・単元学習後の感想文や考えたことなど作文に取り組んだ。伝えたいことを中心に書くことや、読み手にわかりやすい書き方を今後学習していく必要がある。パターンを教え込むだけでなく、たくさんの読み物に触れさせて、自分に合った書き方を身に付けさせたい。</li> </ul>

<p>社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象に対して、意欲的に取り組もうとする姿勢が見られるが、生活経験を授業に生かして考えられる児童が少ない。</li> <li>・資料を読み取ったり、資料から考えたりする児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な題材を扱うことが多いので、授業では、常に自分の経験を振り返らせるようにする。場合によっては資料を用意し、予想を立てられるようにする。</li> <li>・青梅市や東京都の例を挙げながら学習を進めていく。児童が興味をもてるような発問を考える。</li> <li>・教科書に載っているグラフや資料の他に、教師側が意識的に別の資料を用意して授業を進めていく。</li> <li>・資料を読み取る時間を十分確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期から東京都の学習に入り、東京都の知識や土地の感覚が備わっていないため、資料を基に予想を立てやすくする手だてをとった。自分たちの住んでいる青梅(西部)から東部の土地の利用から学習に入り、その土地の文化の学習と、段階的に取り組ませることで、児童が興味をもち、たくさんのお考えが出た。</li> <li>・グラフや写真資料から自分の考えを、自信をもって発言できるように、引き続き声掛けが必要である。</li> </ul>
<p>算数</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を意欲的に解く姿勢はあるが、複雑な文章題などを自力解決できる児童が少ない。</li> <li>・既習をきちんと定着できている児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文が何を尋ねているのか確かめたり、必要な数値は何かを自力で読み解いたりする時間を設ける。</li> <li>・宿題や全校算数で既習学習を復習する機会を設ける。</li> <li>・新しい単元の導入の際に、必要な既習事項を確かめる時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立式の根拠や考え方を説明する時間を設けることで、自己解決できる児童が多くなったが、まだ不十分なので継続して指導をしていく。</li> <li>・宿題、全校算数、放課後教室で繰り返し指導を行い、基礎的な力についてはついてきた。</li> </ul>
<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想や結果に関して、なぜそう考えたかを、自分の言葉で説明しにくい姿が見られる。</li> <li>・興味をもって実験に取り組む児童が多い。実験器具の正しい使い方が定着していない側面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果やわかったことを、自分の言葉にして説明できるよう指導していく。</li> <li>・問題解決の流れを、ノートにパターン化して書かせていく。</li> <li>・星座早見やこれから使う器具の使い方を定着させ、実験の技能と正確性を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期には実験の結果からどのようなことがわかるのか、めあてや予想を元に考える活動を行った。活動を繰り返すうちに、だんだんとどのようなことがわかったか、自分なりに説明できる児童が増えた。</li> <li>・実験器具を使用している間は使い方を理解しているが、使わないと忘れてしまう傾向にある。使い方を繰り返し確認していく必要がある。</li> </ul>

音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱は意欲的に楽しんで取り組んでいるが、声に力が入ってしまうことも多い。</li> <li>・器楽はリコーダーの運指が定着してきている。他の種類の楽器の経験も増やし、演奏のよさが感じ取れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年に向けた頭声的発声のよさを感じ取り、そのよさを実現する具体的な技術を習得できるようにする。</li> <li>・リコーダー曲にたくさん取り組み、運指をほぼ全て定着させる。音の重なりがよさが感じ取れるよう、グループでの演奏や、合奏をたくさん取り入れ、経験させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲によってそのよさを生かした歌い方ができるようになってきた。しかし、高音の響きを実現させるためには、もう少し多くの技能の習得が必要である。</li> <li>・グループや少人数での演奏の場を取り入れた学習を積み重ねることができた。またその学習を生かして、合奏などの大人数で合わせる学習につなげ、周りの音を聴きながら演奏することができるようになってきた。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形活動に興味・関心があり、意欲的で、集中して、表現することができる。自分の思いを立体・平面作品に表現する事が出来る。</li> <li>・鑑賞では、さまざまな作品に興味を持って楽しく観ることができ、友達の話をよく聞き、関心を持って作品を観ることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見たこと感じたこと想像したことを平面・立体作品に自分の思いを豊かに表現することができるようにさせる。</li> <li>・鑑賞活動を通じて友達の言葉を受けて、そこから自分の考えを気付かせ、友達の良さに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見たこと感じたこと想像したことを自分の中で、イメージして構想を練り意欲的に作品に取り組むことができた。</li> <li>・展覧会の友達の作品や名画を鑑賞して、自分が気付いたこと、思ったことを鑑賞カードに書き、鑑賞を通して友達のよさを認めることができ、さらに自分の作品への興味、意欲へつながった。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動することが好きな子が多く、意欲的に取り組むことができる。</li>   <li>・ルールを理解し、楽しく取り組めるまで時間を要する児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が向上心をもって取り組めるよう、学習カードを活用していく。</li> <li>・学年体育を取り入れ、チームスポーツに取り組むことで、教え合ったり、励まし合ったりする機会を増やす。</li> <li>・チームを作って取り組む際は、めあてを決め、役割分担をし、協力して活動できるようにする。</li>   <li>・ルール説明の時間を十分にとり、取り組んでいく中で、前向きに取り組めるように声を掛けていく。</li> <li>・予めルール説明をして取り組むが、児童の実態に応じて、必要があれば、児童が取り組みやすいようにルールを変更していくなど、柔軟に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードだけではなく、タイムの測定や、技の確認をこまめに行うことにより、自分自身の課題を意識して活動に取り組む児童が増えた。</li> <li>・学年体育やチームごとの役割分担を行う中で、協力して活動に取り組むようになった。また、チームの中で自然と教え合う姿も増えてきた。</li> <li>・ルールの確認を明記し、その都度行うことにより、安心して取り組んだり、自分たちでルールを確認し合ったりするようになった。</li> <li>・児童の実態に合わせてルールを取り組みやすいように変更することにより、どの児童も積極的に活動できるようになった。</li> </ul>
--	--	--	--